



APPENDIX D

CLI ベースのセットアップ プログラムによる スイッチの設定

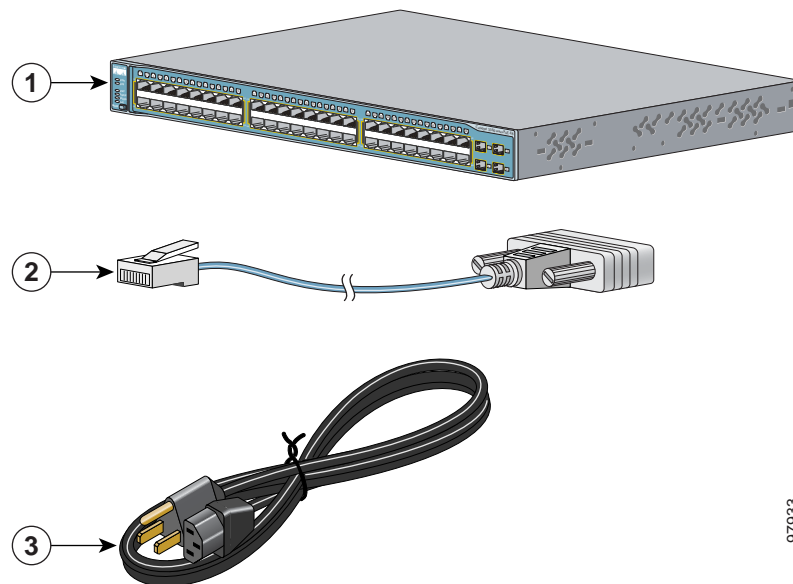
この付録では、スタンドアロン スイッチの Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) ベースのセットアップ手順について説明します。第 2 章「スイッチの設置 (24 ポートおよび 48 ポートスイッチ)」と第 3 章「スイッチの設置 (8 ポートおよび 12 ポートスイッチ)」で安全上の警告を確認してください。

Express Setup を使用したスイッチのセットアップ方法については、『Catalyst 3560 Switch Getting Started Guide』を参照してください。

セットアップの準備

ステップ 1 次の品目を梱包箱から取り出します。

図 D-1 Catalyst 3560 スイッチ、アダプタ ケーブル、および AC 電源コード

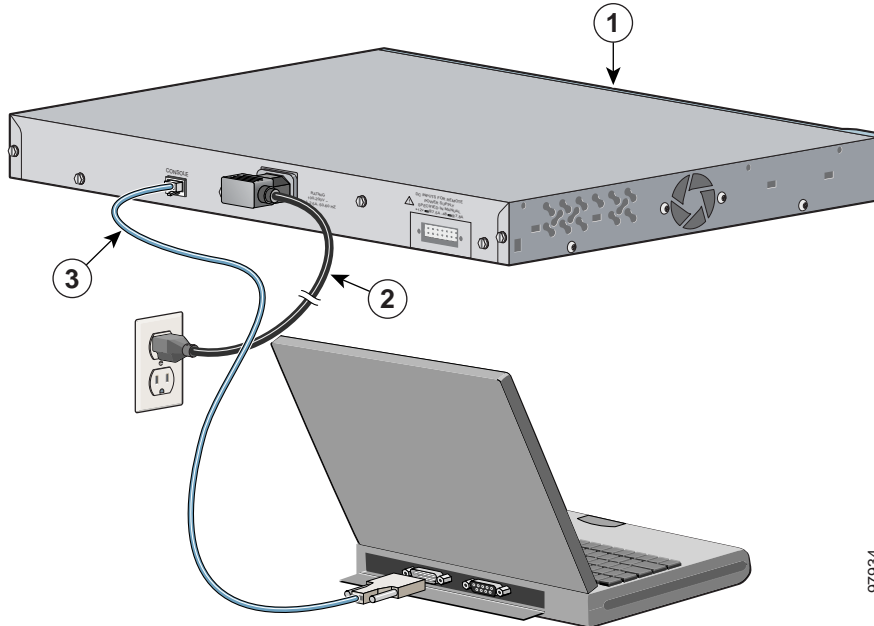


1	Catalyst 3560 スイッチ	3	AC 電源コード
2	RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブル		

97933

ステップ 2 図 D-2 に示すように、付属の RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブルを使用して、スイッチの背面パネルのコンソール ポートに RJ-45 コネクタを挿入します。

図 D-2 PC とスイッチの接続



ステップ 3 DB-9 メス DTE のアダプタ ケーブルを PC のシリアル ポートに取り付けるか、適切なアダプタを端末に取り付けます。

ステップ 4 スwitchの電源が入るまで待ちます。

1	Catalyst 3560 スイッチ	3	RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブル
2	電源コード		

ステップ 5 スwitchの電源を入れる前に、端末 エミュレーション セッションを開始して、Power-On Self-Test (POST; パワーオンセルフテスト) の出力を確認します。端末 エミュレーション ソフトウェア (その多くは、ハイパーターミナルや Procomm Plus などの PC アプリケーション) によって、スイッチと PC または端末間の通信が可能になります。

ステップ 6 PC または端末のボーレートおよびキャラクタフォーマットを、次に示すコンソールポートのデフォルト特性に合わせて設定します。

- 9600 ボー
- 8 データ ビット
- 1 ストップ ビット
- パリティなし
- なし (フロー制御)

ステップ 7 付属の AC 電源コードの一端をスイッチの背面パネルにある AC 電源コネクタに接続します。図 D-2 を参照してください。

ステップ 8 電源コードの反対側を、アースした AC 電源コンセントに接続します。

スイッチの電源が入ると、Power-On Self-Test (POST; パワーオン セルフテスト) という一連のテストが自動的に実行され、スイッチが正常に機能しているかどうかを確認されます。スイッチが POST を開始すると、システム LED がグリーンにゆっくりと点滅します。POST が終了すると、システム LED はオレンジに点滅します。POST に失敗すると、システム LED はオレンジのままです。POST が正常に終了すると、システム LED はグリーンに速く点滅します。

POST のエラーはほとんどの場合、回復不可能な障害です。スイッチが POST に失敗する場合は、シスコテクニカルサポートに連絡してください。

スイッチの電源を入れる前に端末エミュレーションプログラムを起動すると、PC または端末にはブートローダシーケンスが表示されます。Enter を押してセットアッププログラムのプロンプトを表示する必要があります。



(注) スイッチをシスコ製 Redundant Power System (RPS; 冗長電源システム) に接続している場合は、RPS に付属のマニュアルを参照してください。

セットアッププログラムの完了

スイッチの電源を入れると、セットアッププログラムが自動的に起動します。次の情報を確認してください。

- スイッチの IP アドレス
- サブネット マスク (IP ネットマスク)
- デフォルト ゲートウェイ (ルータ)
- イネーブル シークレット パスワード
- イネーブル パスワード
- Telnet パスワード

ステップ 1 最初の 2 つのプロンプトで Yes を入力します。

```
Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]: yes
```

```
At any point you may enter a question mark '?' for help.  
Use ctrl-c to abort configuration dialog at any prompt.  
Default settings are in square brackets '[]'.
```

```
Basic management setup configures only enough connectivity  
for management of the system, extended setup will ask you  
to configure each interface on the system.
```

```
Would you like to enter basic management setup? [yes/no]: yes
```

ステップ 2 スイッチのホスト名を入力し、Return を押します。

ホスト名は、コマンド スイッチでは 28 文字以内、メンバー スイッチでは 31 文字以内に制限されています。どのスイッチのホスト名でも、最後の文字には `-n` (`n` は数字) を使用しないでください。

```
Enter host name [Switch]: host_name
```

ステップ 3 イネーブル シークレット パスワードを入力し、Return を押します。

このパスワードは 1 ~ 25 文字の英数字で指定できます。先頭の文字を数字にしてもかまいません。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先頭のスペースは無視されます。シークレットパスワードは暗号化され、イネーブルパスワードはプレーン テキストです。

```
Enter enable secret: secret_password
```

■ セットアッププログラムの完了

- ステップ 4** イネーブル パスワードを入力し、Return を押します。

```
Enter enable password: enable_password
```

- ステップ 5** 仮想端末 (Telnet) パスワードを入力し、Return を押します。

このパスワードは 1 ~ 25 文字の英数字で指定できます。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先頭のスペースは無視されます。

```
Enter virtual terminal password: terminal-password
```

- ステップ 6** (任意) プロンプトに従って、Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) を設定します。SNMP の設定は、CLI、CMS、Network Assistant インターフェイスを介してあとで行うこともできます。あとで SNMP を設定する場合は、**no** と入力します。

```
Configure SNMP Network Management? [no]: no
```

- ステップ 7** 管理ネットワークに接続するインターフェイスのインターフェイス名 (物理的なインターフェイスまたは VLAN (仮想 LAN) の名前) を入力して、Return を押します。このリリースでは、インターフェイス名には必ず **vlan1** を使用してください。

```
Enter interface name used to connect to the
management network from the above interface summary: vlan1
```

- ステップ 8** インターフェイスを設定するために、スイッチの IP アドレスとサブネット マスクを入力し、Return を押します。次に示されている IP アドレスとサブネット マスクは単なる例です。

```
Configuring interface vlan1:
Configure IP on this interface? [yes]: yes
IP address for this interface: 10.4.120.106
Subnet mask for this interface [255.0.0.0]: 255.0.0.0
```

- ステップ 9** Y を入力して、スイッチをクラスタ コマンド スイッチとして設定します。N を入力すると、メンバ スイッチまたはスタンドアロン スイッチとして設定されます。

N と入力した場合、そのスイッチは CMS または Network Assistant に候補スイッチとして表示されません。コマンド スイッチとしてのスイッチの設定は、CLI、CMS、または Network Assistant インターフェイスを介してあとで行うこともできます。あとで設定する場合は、**no** と入力します。

```
Would you like to enable as a cluster command switch? [yes/no]: no
```

以上でスイッチの初期設定が完了しました。スイッチに初期設定が表示されます。次に出力例を示します。

```
The following configuration command script was created:
hostname switch1
enable secret 5 $1$U1q8$D1A/OiaEbl90WcBpd9cOn1
enable password enable_password
line vty 0 15
password terminal-password
no snmp-server
!
no ip routing
!
interface Vlan1
no shutdown
ip address 10.4.120.106 255.0.0.0
!
interface FastEthernet1/0/1
!
interface FastEthernet1/0/2
interface FastEthernet1/0/3
!
...<output abbreviated>
!
interface GigabitEthernet2/0/28
```

```
!  
end
```

ステップ 10 次の選択肢が表示されます。

```
[0] Go to the IOS command prompt without saving this config.
```

```
[1] Return back to the setup without saving this config.
```

```
[2] Save this configuration to nvram and exit.
```

If you want to save the configuration and use it the next time the switch reboots, save it in NVRAM by selecting option 2.

```
Enter your selection [2]:2
```

いずれかを選択して Return を押します。

セットアッププログラムが完了すると、スイッチは作成されたデフォルト設定を実行できます。この設定を変更するか、他の管理作業を実行する場合には、次のいずれかのツールを使用します。

- Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス)
- ブラウザの CMS
- ブラウザの Network Assistant

CLI を使用するには、端末エミュレーション プログラムを使用してコンソール ポートから、または Telnet を使用してネットワークから、*Switch>* プロンプトにコマンドを入力します。設定手順については、スイッチのソフトウェア コンフィギュレーション ガイドまたはスイッチのコマンド リファレンスを参照してください。

CMS の使用方法については、CMS のオンライン ヘルプを参照してください。Network Assistant の使用方法については、『*Getting Started with Cisco Network Assistant*』を参照してください。

スイッチを設置する手順、スイッチ ポートに接続する手順、または Small Form-factor Pluggable (SFP; 着脱可能小型フォーム ファクタ) モジュールに接続する手順については、第 2 章「スイッチの設置 (24 ポートおよび 48 ポート スイッチ)」および第 3 章「スイッチの設置 (8 ポートおよび 12 ポート スイッチ)」を参照してください。

■ セットアッププログラムの完了